

# 複数夜勤を実現し、命が守られる働き方を求めるアピール

2022年6月1日、大手牛丼チェーン店「すき家」で22時から翌朝9時までの勤務をしていた職員が、一人での夜勤中（以下、ワンオペ夜勤）に倒れて亡くなるという悲しい報道がありました。亡くなられた方は深夜帯5時までは複数体制ではあったものの、5時～9時までワンオペ夜勤となり、5時30分頃に倒れたあと、9時に勤務を交代する職員がくるまで見つからずに放置となってしまいました。もしワンオペ夜勤でなければ、救えた命だったかもしれせん。

私たち「なくせワンオペ！プロジェクト」は、全国福祉保育労働組合東海地方本部の組合員が夜勤中に倒れて亡くなったことをきっかけに、愛知県医療介護福祉労働組合連合会と全国福祉保育労働組合東海地方本部の共同でワンオペ夜勤改善のために行動してきました。すき家では2014年にワンオペ夜勤が問題となり、業務改善をすすめていたと聞いていましたが、実際には深夜帯のワンオペ夜勤のみの改善しかされていなかったことは遺憾の思いです。

そもそも深夜労働は日中とは違い、誰かとすぐ連絡がつく時間でないだけでなく、体調不良になった際には、1人でのため助けを呼びづらい状況があります。深夜労働での健康被害も言われる中で、ワンオペ夜勤は労働者の安全配慮に欠く内容だと言わざるをえません。

私たち介護・障害職場で働く職員にとっては職員の命だけでなく、利用者の命にも直結する課題であり、介護・障害職場では国の報酬単価の中での運用をせざるをえないため、事業所努力のみで複数夜勤体制を実現することは非常に困難です。

私たちは複数夜勤体制を求めて、以下のことを求めます。

- 1、夜勤者は複数配置を原則とし、職員が安心・安全に働く環境を求めます。
- 2、夜勤手当や超過勤務手当を頼らなくても、生活ができる賃金が保障されるよう、基本給の引き上げを求めます。
- 3、介護・障害など社会保障・社会福祉分野で働く職場の夜勤体制は、国の責任で複数配置が原則となるよう配置基準を改善し、それに見合う報酬単価としてください。

誰かの犠牲によって成り立つ労働の在り方から、私たち1人ひとりの命や生活を大切にす  
る働き方となる社会を目指して、なくせワンオペ！の運動をすすめていきます。

以上

2022年6月10日  
なくせワンオペ！プロジェクト チーム一同